



名古屋柳城短期大学

ちやべるにゆーす

第15号 創立110周年記念・クリスマス特集号

2008年12月20日

「あなたがたは世の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩はなにによって塩味が付けられよう。もはや何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。

また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」(マタイによる福音書第5章13節)

みなさんは料理は得意ですか。料理のコツは食材の新鮮さも大切ですが、塩加減が一番の決め手といえないでしょうか。この肝心の塩の味がなくなってしまうたら、美味しくありません。箸もつけないで捨ててしまうかもしれません。イエスはこの譬(たとえ)をとおして私たちに何を語りかけたのでしょうか。それは、神様からほんとうの愛を知らされた者が自分のことのように人びとを愛し、支え、はつらつと生きることによって、世の中の多くの人びとに喜びと希望を味わってもらえることになるのだ、ということです。

世の光も同じです。みなさんは夜遅く真っ暗な道を一人で歩いていると、不安に駆られたり、怖くなったりすることはありませんか。そんな時に街灯のある道に出ると一安心し、嬉しくなります。神様からの恩恵をいただいた信者は、暗闇を照らす光となって人びとの道しるべとなりなさい、と述べられています。そして、こうした行いは、ほかならない神様をあがめること

になる、ということが強調されています。

塩も、光も私たちにとってなくてはならないものです。あなたがたも、塩や光のような、なくてはならない存在として、世の中のみなさんに希望や喜びを与えなさい、とイエスは教えておられるのです。

さて、クリスマスがもう間近に迫っています。いうまでもなく、クリスマスはイエスのお誕生をお祝いする日です。神様は私たちを罪からお救いになれるために、この世にイエスを遣わされたのです。このことに心から感謝し、神様のみわざを讃(たた)え、神様の教え(聖書)からもっともっと学び、そして祈りをもってクリスマスを迎えたいものです。

私たちの柳城は、今年、創設110周年を記念していくつかの行事を行いました。荘厳な記念礼拝でしたし、たいへん有益な講演でした。参加されたみなさんにとっては、そう簡単に忘れそうもないほど印象に残る記念行事ではなかったかな、と思っています。こういう大きな節目となる年だけに、今年のクリスマスには、マーガレット・ヤング先生をはじめ、一世紀余の長きにわたって本学の基盤をつくり、発展させてこられた、そして何よりも幼児教育界において「地の塩、世の光」としてご活躍されたたくさんの教職員や卒業生のみなさんに心からの感謝とお礼を申し上げ、これまでの伝統を引き継ぎ、さらに発展していくことができるように、私たちも「地の塩、世の光」としての役割を少しでも発揮することができるよう、共に祈りたいと思います。

心から「メリー・クリスマス！」と笑顔で、感謝し、希望に胸をふくらませて祝福し合える2008年のクリスマスとなりますように！

地の塩、世の光

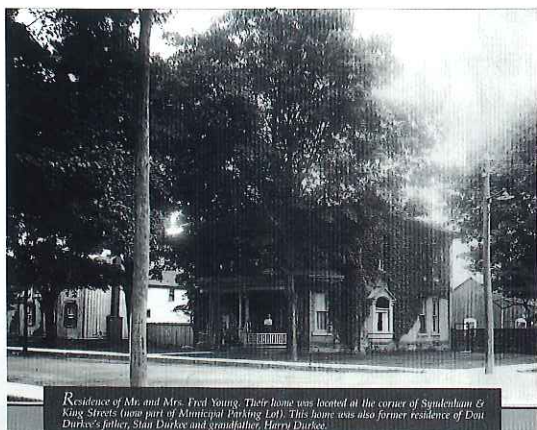
学長 新海 英行

ヤング先生のルーツ

尾上 明子

ヤング先生の育った町ヴィエンナ (Vienna) は、先生が生まれる以前は、鉄道が通り材木伐採で栄えた町でした。また、すぐ近くのエリー湖に面したポート・ブウエル (Port Burwell) は、ヤング先生のお父様がヨーロッパからセントローレンス川を通り、移民として船で到着したところです。活気づいていた当時のヴィエンナは、夜遅くまで町の明かりが消えないようなところだったようです。ヤング先生は、ここで子ども時代を過ごされました。ここには、エジソンの祖父母も住んでいたようで、今も小さなエジソン博物館があります。

さて、この町からそう遠くないエールマ (Aylmer) という町は、ヤング先生が町の最初の幼稚園の先生として働かれたところですが、ここにはヤング先生の弟さん、フレッド・ヤング氏の家もあったようです。(写真①) つたの絡まる瀟洒(しょうしゃ)な家ですね。この写真は、エールマを訪問したときに偶然出会った方の家に置いてあった町の歴史記念のカレンダーから見つけたものです。また、カナダでお世話になった方が送ってくださった冊子のなかからも偶然、ヤング先生の弟さんの写真を見つけました。(写真②) ヤング



写真① フレッド・ヤング邸



写真② フレッド・ヤング氏 前列右端

先生にとっても似ていらっしゃるね。

ヤング先生は、一般にカナダ聖公会から派遣された宣教師という表現をされますが、実は、初めの宣教師たちは皆、教会の支援があったとはいえ、基本的には、独立宣教師、つまり自費宣教師として来日されているのです。調査に協力してくださったカナダの日系二世の岸部さんは、この写真の家を見て、日本への渡航に相当な費用がかかった当時、この弟さんの後ろ盾があったのではないかと推測されました。もちろん、教会や多くの方々の支援がなければ、宣教の業は続けられなかったことはいうまでもありません。ヤング先生は、幼稚園の働きについては本国に報告を沢山送っておられますが、ご自分のことはなに一つ書いておられません。神秘で謎に満ちたマーガレット・ヤング先生！創立110周年を迎えた今、改めて、私たちが柳城に連なっている不思議さを噛みしめたいと思います。そして、神様の奇しいみ業を心から賛美したいと思います！



日系収容所における ホーキンス先生の働き

中根 淳子

こんにちは。私は、短期大学の初代学長フランシス・ベル・ホーキンスです。

私はヤング先生同様、キリスト教伝道のため1920年、29歳のときにカナダ聖公会の婦人伝道補助会から日本に派遣されました。幼稚園で長く働いた後、柳城に來ました。

柳城保姆養成所で校長をしていたとき、第二次世界大戦が起り、私たちは敵国人ですので、カナダに一時帰国しました。

そのころ、カナダのビクトリア州では、日系漁民がスパイとして活動するのではと疑われ、すべての日系人が海岸線から100マイル以上内陸へ入ったところに移住するよう命じられました。州政府は収容所をいくつも作りましたが、当初、幼稚園や小学校もなく生活設備も不十分でした。そこで多くの宗教団体が日系人の生活や教育、信仰への手助けをしました。特に日本語がわかるカナダ人宣教師は大勢収容所へ派遣されました。

1941年、私は、バンクーバー島で活動した後、タシメと名づけられた山深い場所にある収容所に向かいました。タシメは地名ではなく、人の苗字に由来にして収容所につけた名前だったため、今では地図を探してもありません。



日系人収容所 タシメ (人口2,500)、1942年
写真提供：カナダ聖公会アーカイブス

私はすぐに幼稚園を作りました。タシメの幼稚園には多いときで200人以上もの子どもがいました。入園式も卒業式も遠足も



ホーキンス先生と幼稚園の子どもたち。The Living Message, vol.55,no.1,Jan.1944,P.6より

もクリスマスは大きな行事でした。

子どもたちは収容所で製材の様子を見たり、大工仕事を手伝ったり、大自然の中で遊んだりと貴重な体験もしたのですが、都会から遠く離れていたため、商店街や電車を見たことがないことが心配でした。

戦後、収容所は閉鎖され、日系人はカナダ政府によって謝罪と補償がされましたが、大変長い道のりでした。

私は収容所から、カナダ人の子どもたちに収容所の生活を伝える手紙を書きました。手紙の最後の部分をここに載せます。この言葉は子ども達だけでなくカナダ国民へのメッセージでもあったのです。

'I wish you could know some of the boys and girls here. They are just like you and me, and you'd enjoy playing and working with them, as I do. If you ever have a chance, and you may, for some of them go East to live, please be nice to them, welcome them, and try to make them feel at home. Try to remember that they too are amongst those whom the war has driven from their homes, through no personal fault of theirs. Remember too, that they are your brothers and sisters, because we are all God's children.'

訳

'あなたがたをこの子どもたちに会わせることができましたと思います。彼らはあなたやわたしと何も変わるところはありません。きつとともに楽しく遊んだり働いたりできることでしょう。ですから、もしも彼らに会ったら、優しく接してあげてください。歓待し、くつろげるようにしてあげてください。この子たちもまた、戦争によって罪もなく故郷を追われたのだということ、そしてわたしたちは誰でも神さまのもとで兄弟姉妹なのだということを、忘れないようにしてください。'

前期合同礼拝報告

市原信太郎

今年度の合同礼拝は、6月11日(水)、チャペルを会場に行われました。

今年度のゲストは、オルガン奏者・キーボード奏者の鈴木隆太さん。鈴木さんは、法学部出身の音楽家という異色の経歴をお持ちで、新日本フィルの副指揮者として音楽活動のキャリアをスタートさせた方。そのこともあって、現在の演奏活動もクラシックからジャズやニューウェーブまで幅広く、またオルガン演奏以外にも映画音楽や和太鼓との共演など、演奏だけでなく作曲や編曲、指揮など、驚くほどさまざまなジャンルでご活躍です。また、聖公会の熱心な信徒であり、わたしたちが礼拝で使用している「日本聖公会聖歌集」の編集にも携わられています。

大変多忙な方で、事前の打ち合わせがなかなか行えず、結局チャペルのオルガンに触っていただいたのは当日の午前中。わたしたちのチャペルのオルガンは、アーレン社製の電子オルガン(鈴木さんによれば、パイプオルガンに対して「パイプレスオルガン」というカッコいい呼び方があるとのこと)ですが、仕事ですでに何回も演奏したことがあるというお話なので担当者は安心していました。しかし当日驚いたのは鈴木さんの方。「え、これ、セッティングを保存できない！」オル



普段とは逆向きに座った学生たち

ガンの型が古く、あらかじめいろいろな音の組み合わせを作っておいて、それを覚えさせておくという機能がなかったのです。しかしそこはプロ。本番は見事な演奏でした。

当日は普段の礼拝とは逆向きに、皆が聖堂後部を向いて、オルガンの音を前から聞くことができるようにしたほか、演奏中の様子を見ることができるようビデオカメラを設置して、鈴木さんの姿をフロアに中継しました。この趣向、学生たちには「指の様子が見えてとてもよかった」と喜ばれましたが、鈴木さんご本人には「何なの、これ！」と大変に不評でした…

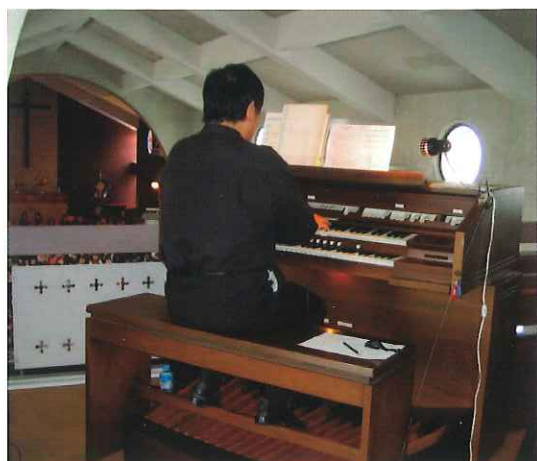
当日のプログラムは以下の通りでした。

1. 「テ・デウムへのプレリュード」(シャルパンティエ)
2. 「トッカータとフーガ」より「トッカータ」(バッハ)
3. アルバム「スフェア」より「賛歌」(キース・ジャレット)
4. 「メヌエット」(バッハ)
5. 聖歌38番「キリストカある主よ」(作曲:鈴木隆太)【全員合唱】
6. 「子守歌」(ヴィエルヌ)
7. 「昔、お嬢さんがいました」または「恋のレッスン」(クレマン・ジャヌカン)
8. さらば宇宙戦艦ヤマトより「白色彗星」(宮川泰)
9. 聖歌521番「主よ終わりまで」【全員合唱】
10. 「夜空ノムコウ」(作詞:スガシカオ、作曲:川村結花)
アンコール 「となりのトトロ」より「さんぽ」(作詞:中川李枝子、作曲:久石譲)【全員合唱】

たくさんの曲を弾いていただいただけでなく、アンコールもサービスしていただきました。このアンコール曲、皆に挙手でアンケートを採って「『ごくせん』のテーマ」か「さんぽ」のどちらかという選択になりましたが、ほぼ同数。最終的には「チャプレンに決めてもらう」という鈴木さんの提案で、チャプレンは悩みながらも「さんぽ」を選びました。

曲の合間の語りもとても興味深く、学生たちもいろんな反応をしながら聞いていました。

中でも、ジブリアニメの「崖の上のポニョ」や「ハウルの動く城」の音楽の演奏に参加されている、ということを紹介されたときには、ものすごいどよめきがあがりました。その他、サントリーホールのパイプオルゴールの曲を担当されていたりなど、縦横無尽の大活躍のお話には皆ただただ感服するばかり。



演奏中の鈴木さん

演奏では、すばらしいテクニックを堪能しました。聴いているだけではわからないことでしたが、実は楽譜を見てその通りに弾いたという曲はほとんどなかったのです。暗譜というよりも、主題と和声だけを覚えていて、あとは即興による演奏でした。そう思うと、あの演奏のすごさがいよいよ伝わってくる気がします。また、普段礼拝でも使用しているこのオルガンがこんな風に音を出せるのか！という新鮮な驚きを得ることもできました。

鈴木さんの伴奏で歌う、という贅沢な体験もしました。聖歌2曲は、いずれも途中に間奏を挟んだり、各節の繰り返しのたびに音色やニュアンスを変えたりと自由自在に歌をサポートしてくださる感じ。例えば、「主よ終わりまで」は3節をしっとり歌った後、短い間奏が入り、最後の4節は和声もとてもかっこよくアレンジされ、音色も一気に華やかに。歌っていた学生たちの表情には、「すごい！」

と思わず笑顔が浮かびました。

当日の感想を、授業の中で1年生が書いています。その中からいくつかご紹介します。

- とにかく、すごく感動しました!!演奏だけでなく、オルガンの特徴や、演奏会のこと、鈴木さんの仕事など、色々なことを聞いて、本当にすごい人の演奏を聴けて良かったです。(KJ)
- 初めての合同礼拝で、オルガンの演奏をたくさん聴くことができ良かったです。オルガンには、ピアノと違った強弱の方法や音を変えたりなどの魅力的な点がいっぱいありました。最近ピアノの音しか聴いていなかったのも、オルガンの演奏が新鮮に感じました。(TE)
- 鈴木さんの演奏している姿を見ていたら、この人は本当に楽しんで演奏しているんだなって伝わってきました。一番印象的な曲はやはり「さんぽ」です。こんな有名な人のオルガンで皆が歌うことに感動しました。(YM)
- オルガンの音や弾いている雰囲気や曲からすごくいやされました。幼児を楽しませるには、どの曲を弾いたらよいのか、弾き方を工夫してみようとか色々考えました。(NK)
- 演奏がすごく上手でした。いろんな音色が飛び交ってすごく楽しかったです。今までいろんな音楽をたくさん聴いてきたけど、初めて頭の中に音符が踊っているようなイメージが生まれました。(TY)

その他、「もっとピアノを頑張ろうと思いました」、「オルガンを自分でも弾いてみたいくなりました」などの声もたくさんありました。

しばらくチャペルに残っておられた鈴木さんに、学生たちは他のジブリアニメの曲をリクエストしたり、サインをせがんだりなど、余韻を十分に楽しんだ様子でした。こんな勝手なお願いにまで笑顔で快く応えてくださった鈴木隆太さんに、改めて感謝！

クリスマス特集 絵本で見る北欧のクリスマス

村田 康常

北欧のクリスマス

デンマーク、スウェーデンなどの北欧の国々では、クリスマスをjul（ユール）と呼びます。これはキリスト教が北欧の国々に伝わる以前に行われていた冬至のお祭り（祖霊祭）の頃から使われていた呼びかたです。キリスト降誕の宗教行事がキリスト教化の過程でその祭りを取りこみ、現在のクリスマス行事へと変化していったといわれています。北欧だけでなくヨーロッパ各地にはそれぞれの民間信仰にもとづく冬至の祭りがありました。スウェーデンではクリスマス前の12月13日に、ルシア祭という行事があります。これはルシアという聖人を祝う冬至の行事で、太陽や光の衰えと再生にちなんだ光の祭りです。

キリスト教は、それぞれの土地に根ざした民俗風習や伝統を取り込むことによって、人々に受け入れられ、広まっていきました。ユール（クリスマス）はそのような行事の中で最大のものであるといえるのです。

今回は、絵本をひらいて、北欧のクリスマスをのぞいてみましょう。

アドベント

クリスマス前の4週間はアドベント（待降節）と呼ばれ、この期間に人々はクリスマスの準備をすすめます。アドベントカレンダーは12月1日から24日まで毎日ひとつずつ小窓を開けていくカレンダーです。このアドベントカレンダーを模して1日1話、全部で24話構成の絵本やお話の本が作られています。デンマークの童話作家キアケゴの『ニッセのポック』もその一つ。長いあいだ読みつがれているクリスマス物語です。

『ニッセのポック』

（スヴェン・オットー絵／オーレ・ロン・キアケゴ文／梶谷玲子訳）



絵本のなかで、北欧の人たちのクリスマスの準備を見てみましょう。

ノルウェイのプリョイセンのスプーンおばさんのお話はアニメ化されたこともあり、ご存知の方も多いでしょう。もとは児童文学として書かれたものですが、そこから何話かが絵本になっています。『スプーンおばさんのク



『スプーンおばさんのクリスマス』（ビョーン・ペレイ絵／アルフ・プリョイセン文／大塚真三訳）

クリスマス』はその1冊です。クリスマスの近づいたある朝、おばさんは突然ティースプーンくらいに小さくなってしまいました。この日おばさんはクリスマスの買い物をする予定でした。おばさんの買い物は、「麦の束」「鳥の家」「やどりぎでつくった輪飾り」です。麦の束は、鳥たちへのプレゼントで、家の前に置いておきます。北欧で広く行われている習慣です。輪飾り（リース）は他のヨーロッパ諸国でも見られるキッシングバンチで、ドアの上につるして、その下を通るときキスができるという習わしです。

12月には、北欧の人たちも忘年会を楽しみます。それがjulefrokost（クリスマスランチ）。そのパーティの様子が描かれているのが、スウェーデンの童話作家リンドグレーンの『エーミルのクリスマスパーティ』。リンドグレーンの子ども時代の思い出をもとに書かれた作品です。

『エーミルのクリスマス・パーティ』

（ビョーン・ペレイ絵／アストリッド・リンドグレーン文／さんべいけいこ訳）



クリスマスツリー

モミの木に飾りつけをして室内に置くクリスマスツリーの習慣は、15～16世紀にアルザス地方で始まり、ドイツを中心に広まったといわれています。デンマークには1820年代に伝わりました。意外に新しいのですね。アンデルセン童話の『もみの木』は1844年の作品。アンデルセンは招かれた上流階級の人々の家でおそらくツリーを目にし、童話に取り入れたのでしょ。アンデルセン童話は毎年クリスマス前に刊行されていました。

クリスマスツリーの登場するお話はたくさんありますが、リンドグレーンの『ロッタちゃん」とクリスマスツリー』では、大雪のため森



『もみの木』
(スヴェン・オットー絵/
H.C.アンデルセン文/木
村由利子訳)

からモミの木を切り出せなくなって町中のクリスマスツリーが品切れとなり、「ツリーのないクリスマスなんて！」とロッタちゃんが奮闘するお話です。ツリーの飾りつけは12月24日に行います。

『ロッタちゃんと
クリスマスツリー』
(イロン・ヴィークランド絵/アストリッド・
リンドグリーン文/山室静訳)



プレゼントの贈り手は

子どもたちにとってクリスマスの最大の楽しみは、古今東西いづこも同じ、プレゼントをもらうことでしょうか。では、このプレゼントは誰が持ってきてくれるのでしょうか。

日本の子どもたちみんなが知っているのはサンタクロースですが、北欧の国々でプレゼントを運んでくるのは、デンマーク、ノルウェイではニッセ、スウェーデンではトムテと呼ばれる小人です。この小人は昔、農家の納屋や馬小屋に住みつき、毎日1杯のお粥を報酬として家畜の世話をしたり農夫を手伝ったりという農場守護霊として信じられていました。アンデルセンをはじめとした当時の作家や詩人、芸術家はこぞってニッセやトムテを自分の作品のなかに取り入れ、やがてクリスマスプレゼントの運び手として描かれるようになります。こうしてニッセやトムテは、北欧のクリスマスで一番の人気者になりました。スウェーデンの詩人リュードベリによる『クリスマス・トムテン』には、子どもたちにプレゼントを配るトムテの姿が描かれています。

19世紀にクリスマスニッセ（トムテ）が登



『クリスマス・トム
テン—スウェーデン
のサンタクロース』
(ハーラルド・ヴィベリ
絵/ヴィクトール・リュ
ードベリ文/岡本浜江
訳)

場する以前は、誰がプレゼントを運んできたのでしょうか。スウェーデンの絵本作家ベスコフの『ペッテルとロッタのクリスマス』に描かれたヤギおじさん(julebock)、つまりクリスマスのヤギがその役を担っていました。



『ペッテルとロッタの
クリスマス』
(エルザ・ベスコフ文・絵/
菱木晃子訳)

キリスト生誕の日に

最後に、キリスト生誕にまつわる物語を描いた絵本を紹介しましょう。

『ニルスのふしぎな旅』でおなじみのスウェーデンの作家セルマ・ラーゲルレーフは『キリスト伝説集』を1904年に上梓しました。その中に『聖なる夜（きよしこのよる）』というラーゲルレーフが祖母から聞いたという聖夜に起きた一つの奇跡の物語があります。それをリンドグリーン作品の挿絵で知られるヴィークランドや、スイスのルクレールが絵本にしています。また、リンドグリーンは、キリスト生誕の聖書の物語を『馬小屋のクリスマス』として子どもたちに語りました。

『聖なる夜』
(イロン・ヴィークランド絵/セルマ・
ラーゲルレーヴ文/うらたあつこ訳)



『きよしこのよる』
(ドミニク・ルクレール絵/セ
ルマ・ラーゲルレーヴ文/中村
妙子訳)

『馬小屋のクリスマス』
(ラーシュ・クリンティグ絵/アス
トリッド・リンドグリーン文/うらた
あつこ訳)



鬼をお供にやってくる サンタクロース！！

12月6日は、聖ニコラウス（3世紀頃の聖人・サンタクロースのモデル）祝日とされていますが、ヨーロッパでは、この日をクリスマス前の最も大切な行事・聖ニコラウス祭として盛大にお祝いするところが多いようです。サンタクロースが現在のようなイメージになったのはもっと後の時代ですが、スイス・ドイツ・オーストリア・フランス・ベルギー・オランダなどでは今でも聖人であったニコラウスをととても敬い、おとなも子どももこの日を心待ちにしています。

さて、サンタクロースは、この日、町や村で家々を訪ね歩き、小さなプレゼントを配りますが、そのときお供に鬼を引き連れてくるのです。まるで、日本のなまはげそのものなのですが、ドイツのベルヒテスガーデンの聖ニコラウス祭の様子を写真でごらんください。サンタクロース（聖ニコラウス）は、「キリストに賛美！子どもたちは、良い子にしていたかな？」「〇〇はおもちゃをほうりっぱなしにしておくそうだな」などと尋ねるのです。それを聞いたお供の鬼は、「なんだと！」とおそろしい顔で言います。いまにもどこかへ連れていかれそうな感じです。そこへ聖ニコラウスは、「まあ、まあ」と鬼の腕を押さえて「これからは、ちゃんと片付けるのじゃよ」と子どもと約束します。そして、聖ニコラウスは、チョコレートやナッツの詰め合わせた袋を子どもへプレゼントします。ここには、子どもが良い子に育てて欲しいというおとなの願いが込められているのでしょう。サンタクロースと一見かけ離れた存在の鬼が仲良しなんて面白いですね！ここには、それまでの長い歴史と文化に育まれた伝統が息づいています。

(尾上明子)



ドイツ・ベルヒテスガーデンの聖ニコラウス祭
(日本玩具博物館提供)

クリスマス献金先

今年も皆さまと一緒に、この一年のたくさんのおめぐみを感謝し、多くの困難を抱えておられる方々を覚え、私たちの心をお捧げしましょう！！

- ❖中国四川大地震支援（まだまだ支援が必要です）
- ❖アジア保健研修財団（アジアの医療を支える働きです）
- ❖笹島キリスト教連絡会（超教派のキリスト教会の信徒たちで路上生活者に食事や毛布・衣類を配布する支援しています）
- ❖岐阜アソシア（目の見えない方々の様々な支援を多くのボランティアが支えています）
- ❖その他



2008年12月20日発行 第15号

発行所 名古屋柳城短期大学
名古屋市昭和区明月町2-54

編集兼
発行者 名古屋柳城短期大学 宗教委員会
印刷所 株式会社 丸和印刷



この印刷物は再生紙を使用しています。